

閉科式 学院長式辞



本日ここに、総合衛生学院の看護学科、及び歯科衛生学科閉科式を執り行うにあたり、公私共にご多忙の中、ご来賓の方々や関係者の皆様のご臨席をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

顧みますと、福島県における看護師養成のあゆみは、昭和36年4月に、看護学科の前身であります2年課程の福島県立福島高等看護学院が開設されたことに始まります。当時は、福島県立医科大学附属看護学校と共有の校舎で学びました。

また、歯科衛生士養成のあゆみは、昭和37年4月、歯科衛生学科の前身で、東北で初めての養成機関として、1年課程の福島県立歯科衛生士養成所が開設されたことに始まります。当時は、福島県歯科医師会館で学びました。

その後両学科は、複数回カリキュラムの変更が行われ、その時代にあった学修がなされてまいりました。そして今、50年以上にわたる養成機関としての役割を終え、その幕を閉じます。その間、学舎を巣立った卒業生は、看護学科1,957名、歯科衛生学科887名に達し、今も多くの皆さんが県内外で活躍されております。

昨今の社会構造の変化の中で、県では、民間養成機関の充実、県内の志願者ニーズ、学院の入学者減少の推移など、多角的に県立機関での養成のあり方を検討してきた結果、2学科について、令和4年3月をもって閉科とすることといたしました。

こうして現実に閉科を迎えることは、時代環境の変化があったとはいえ、学院の運営に携わるものとして万感胸に迫るものがあります。

少子・高齢化の進展、医療の高度化に伴い、それぞれの職種は、高度な知識と専門的技術を持ち無くてはならない職種であります。在宅療養者に対するケアや保健指導、災害に対応した活動など、極めて重要な専門職といえます。看護学科と歯科衛生学科はなくなります。その伝統はみんなの記憶の中に根を下ろし、歴史に刻まれ生き続けます。

結びに、これまで看護学科、及び歯科衛生学科の運営に関わってこられた多くの皆様に改めて深く深く感謝を申し上げます。卒業された皆様が、今後も社会のニーズに的確に対応し、保健・医療・福祉の担い手としてご活躍されることを祈念して、式辞といたします。



令和4年3月8日

福島県立総合衛生学院長